

IBMは、野洲事業所の工業団地化

路線をやめよ！

IBMは、地元経済に責任をもて！

かいな

号 外

(2003年9月25日)

JMIU日本IBM支部

野洲分会

責任者 北川定

リストラに反対し、雇用と仕事を守ろう！

- ・ サンミナS C Iは転籍を強要するな
- ・ IBMに帰任した社員に、本人の希望を尊重した新しい職場を提示せよ
- ・ Y S C、日立G S Tへの「移籍」を出向に戻せ

意見は、組合ホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/i/jmiu-ibm>

組合e-mail jmiu-ibm@i.bekkoame.ne.jp までお寄せください

サンミナS C I

・・・転籍？ 出向延長？

9月19日、サンミナS C I社は、9月で出向期間が満了するIBMからの出向社員を集め説明会を開きました。

出向期間後の扱いは、1) 転籍 2) 転籍に同意しない人には、出向延長をIBMに申し入れるというものでした。

しかしながら、各社員には、転籍の場合は、給与(Basic Salary: Jap Yen XXXX per month)などがごく簡単に書かれただけのわずか2枚の英文レターが配布されただけ。しかも説明に立ったのはH女史(シンガポールから来日したサンミナS C Iの人事のようです)でしたが、英語でしゃべり、社員から通訳してくれ、といわれ、W社長がその任にあたるという一幕のおまけつきでした。

それ以上に不可解なのは、転籍という選択肢を提示しておきながら、1) 転籍条件をほとんどまともに開示していないこと、あるいは、煮詰めていないこと 2) 転籍に同意するかどうかの選択期限をわずか1週間後の9月26日としていることです。

このドタバタ発表はいったいなんなのでしょ
うか。その日の夕方、組合はサンミナS C I社
と団体交渉を行いました。

まず、このように重大な発表をした直後の団
交に、ついでに社内には社長、事業所長
が、出席しないという不誠実な姿勢は許されま
せん。

また、団交での会社代表というK氏でさえ、
社員に渡されたレターの内容を事前にはよく知
らされていなかったとのこと。提示された
Basic Salaryでさえその算定式の詳細は不明で
す。

組合は、今回の発表を組合宛てに文書で提示
すること、そのなかに、Basic Salaryの算定式
も明示することを要求し、会社も了解しまし
た。(9/22に、文書回答あり)

また、会社の将来について質したところ、会
社は、IBM野洲事業所から外に出ていく可能
性があることも否定していません。

そもそも、つい最近まで会社は転籍はないと
いっていました。5月21日の団交でも、組合
が転籍という噂について質したところ、会社
は、「転籍という計画そのものも全くありませ

ん」と断言していました。身勝手な会社の御都合主義の見本とも言うべき態度でしょう。

組合は、以下を要求します。

- ・労働条件をはじめ、転籍の場合の詳細についてあきらかにすること
- ・転籍を強要しないこと
- ・転籍を選択しない場合は、出向の延長・IBM本体帰任かは、社員本人の意思を尊重して決めること

IBMは野洲の工業団地化路線をやめ、地元経済と雇用に責任を持つ

- ・2001年6月 半導体部門の野洲セミコンダクターへの強制「移籍」
- ・同年10月 液晶部門のDTI/IDTへの強制出向
回路設計部門のSCIへの強制出向
- ・昨年末から今年にかけて 藤沢・野洲のHDD部門の日立への売却・社員の強制「移籍」
- ・2003年9月 SLC部門の京セラへの営業譲渡（売却）
- ・2003年9月 サンミナSCIで転籍募集

以上は、ここ2年ほどの間の野洲事業所の工業団地化の経緯です。そして、今回のSCIへ出向している社員に対する転籍の提案です。

30数年前、地元の誘致企業として、ここ野洲で事業を開始したIBMは、地元の経済や雇用に対し責任を持たなければなりません。部門ごとに切り売りするようなやり方はやめるべきではないでしょうか？

京セラ子会社への転籍不同意

SLCから京セラ子会社への転籍不同意の社員の所属はスペシャルプロジェクトとなりましたが、このスペシャルプロジェクトの管理者は小原担当と牛場担当となっています。10月1

日からは正式に課長が配属されると聞いております。

巷のうわさでは、第2スペシャルプロジェクトがコンポーネントグループに編入されたことや、101号の第2スペシャルプロジェクトエリアにLanの工事が24人分終了したことなどにより、余剰人員は全て101号に集められ現第2スペシャルプロジェクトの担当が管理するという噂です。

まだまだ、これからIDTの45歳未満の帰任や、SCIの出向切れによる帰任等があり、これらの社員に対して過去の職歴・スキルに合った新しい職場が何時提示されるかと思うと将来の不安を感じるとともに会社の施策に憤りを覚えるこの頃です。

IDT帰任後について

IDTからIBMに帰任した26名のうち、まだ正式の帰任先の決まらない12名について、会社は「9月中に帰任先の職場をなんとかしたい」といっていましたが、未だに提示がありません。SLCからも、京セラへの転籍を拒否した20数名がIBMに残りましたが、IDT帰任者と同じくe-Learningをやらせています。今後、IDTから相当数の帰任が予想され、また、SCIからもそういう可能性もなしとしません。

出向先から大勢の社員が帰任することは、出向時点ですでにわかっていたことで、帰任者の職場を準備しないで帰任させる会社の姿勢に怒りを覚えざるを得ません。

すくなくとも既にIDTから帰任して7~9ヶ月をすぎている未定者については、会社は早急に本人のキャリア、適性、希望に合致した職場を提示すべきです。それが会社の責任というものではないのですか？

組合掲示板について

健康管理室前（1号ビル2階社員ルーム前）に組合掲示板が設置され、組合情報を掲示しています。